ぬ　五十音図に第二十三・四・五列目の字列の称。伊段音・エ段音・オ段音の総称。

ぬ【助】（助動）（ぬ・ぬ・ぬる・ぬれ・ねよ）打消の意を表す。

ぬ【接尾】（接尾）（ぬ・ぬ・ぬる・ぬれ・ねよ）動詞の連用形に付いて、動作・状態の継続

「仁遠何者なれば、閨の夜にことごとしくぬきうちはゆかりなきはいふやらん、我が君にこうろんへものなれ」

ぬきうち 抜打（他動詞）　油断して突然する事。

ぬきうり 抜売（他動詞）　品物の一部を抜いて売ること。

ぬきえ 抜絵（名）　模様を織り出した織物。

ぬきえもん 抜衣紋（名）　衣紋の後ろを抜くこと。

ぬきおく 抜置（他動詞）　前もって用意しておく。

ぬきがき 抜書（名）　入用の部分だけを抜き出して書き取ること。

ぬきがき 抜書（他動詞）　入用の部分だけを抜き出して書き取ること。

ぬきがた 抜型（名）　物の一部分を抜いた型。

ぬきがたな 抜刀（名）　鞘から抜いた刀。

ぬきかた 抜方（名）　抜く方法。

ぬきがら 抜殻（名）　中身を抜いた後の殻。

ぬきがら 抜殻（名）　蛹が脱皮した後の殻。

ぬきがら 抜殻（名）　蝉が脱皮した後の殻。

ぬきがら 抜殻（名）　蛇

き・役などくのぢり歩にぬけ込む人の心。長くはえもしたもの。[日]細い物。多く、ひげについて言う。「文字がぬけてある」[日]少なくなる。

ぬく 抜 (他動) 引き抜く。引きぬく。[日]取り去る。[日]取り除く。[日]ぬけ出る。[日]ぬけ出る。[日]ぬけ出る

「主といひぬしある身に、私の欲なく無心法は「慾深なうて成ぬ筈」四ぬく其の地の山又は木の事ぬきんでゝ靈のまします地の山又は木の事ぬきんでゝ靈のまします地の山又は木の事ぬきんでゝ靈のまします

に同じ。 [古]…たかまとの空の形あらゆる物 [古]…可伎[古]…に 今伎るものむ[古]…伎[古]…椿 [古]…三…雨年ぬきぬ…[古]…なくなた」

ぬっぴり [古]…[古]…[古]…[

に同じ。

ぬひさしもの　ぬひさしたるもの。ぬひかけておきたるもの。所狭くいかにぞ、ぬひさしの物は」

ぬひさす（他動）ぬひかけて中途にて止む。ぬひかけてましおく。縁筵に縫ひさすまで縫ひさす。縫ひさしたる物。

ぬひさし　縫差（名）縫ひかける物。縫ひさしたる物。

ぬひし　縫師（名）縫物を業とする人。

ぬひしごと　縫仕事（名）縫ひしごと（針仕事）に同じ。

ぬひしごと　縫仕事（他動）ぬひしごとをす。縫ひしごとをす。縫ひしごとをす。

ぬひしろ　縫代（名）縫ひ合はす時縫ひ目の外に余す布。縫ひしろ。

ぬひすゑ　縫据（名）縫物などを据ゆる台。縫据は縫ひ目を突に、縫物の表裏共に赤絹肩の縫を置たり」

ぬひつがき　縫附塞（名）ぬひどのつがき（縫殿に同じ。

ぬひつくし　縫附（他動）縫ひて附着せる。

ぬひつくし　縫積（他動）縫ひてつきあはす。縫ひつくし。「代男二女おかかたみのきる物を縫ひつぐやうにて」

ぬひつくし　縫造（名）縫物の限りを尽くすこと。縫物を縫つくすこと。若だなる縫革の縫ひつくし」

ぬひつけもん　縫附紋（名）他の布に描きさる紋を縫に縫ひつけたるもの。

ぬひつける　縫附（他動）ぬひつく（縫附の口語）

ぬひとの　縫殿（名）縫殿寮にて裁縫の事を掌る所。祝「ぬひとの」より御衣奉とて」

ぬひどのの　縫殿の（連体）縫殿寮の（縫殿寮に一人（従五位下相当官）縫殿助（従六位上相当官）縫殿允（従七位下相当官）縫殿大属一人、少属一人、少属一人）

ぬひどのの　縫殿の（連体）縫殿寮の（縫殿寮に一人（従五位下相当官）縫殿助（従六位上相当官）縫殿允（従七位下相当官）縫殿大属一人、少属一人）

ぬひどのかみ　縫殿頭（名）縫殿寮の長官。縫殿助一人（従五位上相当官）縫殿允（従七位下相当官）縫殿大属一人、少属一人）

ぬひどのつかさ　縫殿寮（名）縫殿寮の長官。縫殿助一人（従五位上相当官）縫殿允（従七位下相当官）縫殿大属一人、少属一人）

ぬひどのの　縫殿の（連体）縫殿寮の（縫殿寮に一人（従五位下相当官）縫殿助（従六

都城反逆者ニおゐしめみの道中仕、花の立木の真の傍ニめり出たる如くなり」

ぬりうた 滑歌（名）㊀舞踏ノ時ニ唄ヒ候ヒ歌ノ事ニ候ヒ

ぬりえ 滑絵（名）㊀絵ノ上ニ塗ノ事ニ候ヒ

ぬりくさ 滑草（名）㊀植木本料理ニ属ノ物ニ候ヒ

ぬりこぼし 塗溢（名）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりごめ 塗籠（名）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりしょうじ 塗障子（名）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりたて 塗立（名）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりたてのき 塗立軒（名）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりたてやど 塗立宿（名）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりたてる 塗立る（他動詞）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりたてるし 塗立漆（名）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりたてるもの 塗立物（名）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりたて 塗立（他動詞）㊀塗ノ事ニ候ヒ

ぬりたて 塗立（名

ぬりべのかみ 漆部正（名）漆部司の長官。職員令「漆部司、正一人掌供鞍轡及漆事。」

ぬりべのじょう 漆部佑（名）漆部司の判官。職員令「漆部司、佐一人掌同正。」

ぬりべのつかさ 漆部司（名）大蔵省の管轄下にあった、漆器の製作・修理などを掌る官司。職員令「漆部司、令一人掌供鞍轡及漆事。」

ぬりぼし 塗干（名）塗ったものを干すこと。また、その場所。

ぬりぼり 塗彫（名）漆塗りの上に彫刻すること。また、その彫刻。

ぬりまくら 塗枕（名）漆塗りの枕。

ぬりまげ 塗髷（名）漆で塗り固めた髷。

ぬりもち 塗物（名）漆塗りの器物。

ぬりものし 塗物師（名）ぬりものを作る人。

ぬりや 塗屋（名）外面を土に塗った家。

ぬりやま 塗山（名）漆塗りの木。

ぬりわん 塗椀（名）漆塗りの椀。

ぬるい 緩（形）（ぬるし）（ぬるき）（ぬるく）（ぬるけれ）（ぬるかれ）
①温度が低い。冷たい。
②動作が遅い。のろい。
③厳しくない。手ぬるい。

ぬるかわ 温川（名）温泉の流れ。

ぬるがわ 温川（名）温泉の流れ。

ぬるき 緩木（名）ぬるい木。

ぬるきゆ 微温湯（名）ぬるい湯。

ぬるし 緩（形）（ぬるく）（ぬるき）（ぬるけれ）（ぬるかれ）
①温度が低い。冷たい。
②動作が遅い。のろい。
③厳しくない。手ぬるい。

ぬるしる 微温（名）ぬるい汁。

ぬるしる 微温（名）温度の低い汁。

ぬるすき 緩好（名）ぬるい好み。

ぬるすき 緩好（名）ぬるい好み。

ぬるそこ 微温（名）ぬるい底。

ぬるそこ 微温（名）ぬるい底。

ぬるそこし 微温（名）ぬるい底。

ぬるそこし 微温（名）温度の低い底。

ぬるゆ 微温湯（名）ぬるい湯。

ぬるゆ 微温湯（名）ぬるい湯。

ぬるゆみ 微温（名）ぬるい湯。

ぬるゆみ 微温（名）ぬるい湯。

ぬるゆみごころ 微温心地（名）病気の時などに感じる、ぼんやりとした気分。

ぬるゆみごころ 微温心地（名）病気の時などに感じる、ぼんやりとした気分。

ぬるゆわかし 微温湯（名）ぬるい湯。

ぬるゆわかし 微温湯（名）ぬるい湯。

ぬるわかし 微温（名）ぬるい湯。

ぬるわかし 微温（名）ぬるい湯。

ぬるわかし 微温

ぬれもの 濡者（名）ぬれごとに通じたる人。ぬれかかりやすき人。よく情の道をわきまへふる人。それしや。すね。いきなる人。生玉心中ニどうでも娘親は得者ぢや、油断から出すような女郎」

ぬれよこ 濡緯（名）水気は薄き織機に通して質を柔軟ならしめたる緯糸。

ぬる 濡（自動ナ）ぬる（濡の口語。壬生大念佛ニ「をけ取りと云ふ狂言は、女に出家がぬれる事ぢや」

ぬるわたる 濡渡（自動ヨ）あまねくぬる。殊ニ雨露ニ佳人のそぼりてふなる濡川」「ぬり立てとそぬれ渡りけれ」

ぬれわらんづ 濡草鞋（名）ぬれたるわらぢ。しめりたるわらんづ。二代男「濡れ草鞋に物濡き沿角を、智勤つけなればとて節みならはして」

ぬろ 野（名）の（野）に同じ。萬葉「おもかたの忘れむしだは（ぬば野呂）の露にたなびく雲を見つつしぬばむ」

ぬわ 沼井（名）墾田にて砂に附着せしめたる鹽分を洗ひ取るに使用する道具。

ぬんまり（副）ぬまめくさまにいふ。

ぬんめる 滑（自動ム）ぬめる（滑に同じ。

ぬんめんだらり（名、副）のんべんだらりに同じ。